

団長の稽古日記

「夢と希望と勇氣と優しさと」

団長の独り言」

竹本和弘

平野恒雄の脚本、つまり平野作品には真の人格、正体が話の後半まで伏せられている人物がほぼいずれの作品にも登場します。

いい人に見えて実はとんでもない悪人、またその逆で悪人に見えて実は心ある人物だったとか。

もつとも後者がほとんどなのですが。

そしてそのような登場人物がストーリーの鍵を握っています。

例えば第42回、第43回公演「人生芸夢く夢の通り道く」においては、団長平野恒雄が演じた中沢卓という登場人物がこれに相当します。

話の前半では、利益を上げるためには不要と思われる物、不要と思われる者は容赦なく切り捨てる冷酷な人物として描かれています。

ところが、実はこの中沢卓は仲間を大切に思い、周囲のあらゆる人たちへの思いやりを持ったとても心優しい人物なのです。

そのことが話がラストに向かうに連れ徐々に見えてきます。

第44回公演、次回の第45回公演の「ふたりのゆめ」では、私竹本が演じる芸能事務所社長村川がこれに相当する人物です。

面倒くさいことはすべて須藤あゆみ演じる若手マネージャーの岸本に押しつける。

適当でちゃらいお調子者、というような人物です。

しかし実は：前回第44回公演をご覧になっておられない方々のために詳細はここまでしておきますが、後半以降、この村川の真の人物像が見えてきます。

ストーリーに深く関わっている人物で、役者としてやりがいのある役です。

それ故に、その真の人格を観客にどれだけ伝えることができるかが演者である私竹本の技量にかかっています。

私の身体を通して、真の村川をお伝えできるよう次回45回公演に向け気持ちも新たに稽古に臨もうと思っています。

さて、劇団ふぁんハウスのテーマは夢・希望・勇氣ですが、もう一つ忘れてはいけないものが平野作品の根底には流れています。

それは「優しさ」です。

人に対する優しさのみならず、思い出の品、思い出の場所、故郷など、形ある物、場所、そして歌、詩、音楽など形のない物などにまで及んでいます。

優しさに触れた時、私たちは幸福を感じ、そしてまた自らが優しい気持ちになれるのです。

夢・希望・勇氣に加え、優しさということでも大切なことを平野作品は伝えようとしているのです。

夢、希望、勇氣、そして優しさ、それらを皆様にお届けできるようにみんな力を合わせて、次回公演に臨みたいと思っています。

最後にちょっとしたエピソードをご紹介します。

本番直前の男性楽屋でのことです。団長と私は化粧前を隣にいました。楽屋に入ると左が団長、その右が私でした。

メイクを終えたみんなは、本番前の短い時間をそれぞれの方法で過ごしています。

たまたま楽屋に団長と私の二人しかいなかったごく短い時間がありました。

団長と私は化粧前に座っていました。

その時団長が溜息混じりに、とても残念そうに、しかも目線を落としてうつぶき加減に「そうかあ・・・」と独り言をつぶやいたのです。

私はそれを聞いて心配になり、「団長、どうかしましたか？」と尋ねると、団長はにこにこしながら「いや、ちょっと台詞の確認をしてたんですよ」と。

その直後、私たちは二人で顔を見合わせて大笑いしました。

台詞の確認というのは、単に字面を追うのではなく、相手がいることを、相手が話し手いることをイメージして自らの台詞を発する、ということなのです。

だからとてもリアルだったのです。

改めて役者として、とても大切なことを気づかされた瞬間でした。